

令和4年度

# 都市農業にトライ！

～ 魅力と未来ある都市農業を目指して ～



令和5年1月  
農林水産省

## はじめに

### 都市農業の評価は時代とともに変化

◆ 高度経済成長期の急激な都市化により宅地需要が高まり、地価が急上昇すると、都市で大規模な土地を有する都市農業への風当たりが強まり、都市農業は衰退していきました。

◆ しかし、近年、都市への人口流入の収束により開発圧力が低下すると、都市住民の食への意識の高まりや、ゆとりや潤いを求めるライフスタイルの変化から、身近な農地で生産された新鮮な野菜を手に入れたい、自らの手で野菜をつくりたい、子供達に農作業に触れさせたいといった、都市農業に対するニーズの高まりと共に、都市農業への評価が高まっています。

特に、近年の大災害を受け、避難場所や食料供給機能を担う都市農業の防災の機能が注目されています。

◆ また、新型コロナウイルス感染症発生以降、外出の自粛やテレワークの普及などのライフスタイルの変化により、市民農園や観光農園の利用、農産物直売所など、身近にある都市農業・都市農地に対する関心が高まっていると言われています。



### 都市農業を未来に繋げるためには

◆ 都市に潤いをもたらし、都市住民の生活の向上にも寄与する都市農業の安定的な継続のためには、再生産可能な農業生産が行われることが大切です。

◆ しかしながら、都市農業が営まれる都市農地は一般的に面積が小さく、経営発展のためにどのような取組を行うべきか、苦慮されているという声をお聞きます。

◆ 一方で都市農業者の中には、生産現場と消費者との距離が近いという都市農業のメリットを最大限に活かした特色ある取組をされている方も多くいらっしゃいます。

◆ このため、今後の経営発展の参考としていただけるよう、モデルとなる都市農業者の取組や秘訣などをまとめた事例集を令和2年4月に作成しました。

◆ 今回は、令和4年度に新たに取材した7農家及び都市農業機能発揮対策で支援している8事業者を新たに追加しました。

◇ 本事例集が、都市農業者の方の農業経営の発展に寄与し、都市農業を未来に繋げるための一助となることを期待申し上げます。

◇ 最後になりますが、本事例集を作成するにあたり御協力いただきました農業者の皆さまにこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

# 目次

## 第1章 都市農業のビジネスモデルの事例集

ビジネスモデルの事例	経営体名	営農類型	ページ
東京都江戸川区	KOHARA FARM 小原 英行 氏	野菜	5
東京都足立区	横山農園 横山 辰也 氏	野菜、花卉	6
東京都三鷹市	天神山須藤園 須藤 金一 氏	植木	7
兵庫県尼崎市	ささはら菜園 笹原 篤史 氏	野菜	8
都市農地貸借法の活用事例	経営体名	営農類型	ページ
東京都武蔵野市・小金井市	こびと農園 鈴木 茜 氏	野菜	9
都市農地・農的空間創設の事例	経営体名	営農類型	ページ
東京都練馬区	加藤果樹園 加藤 政好 氏	野菜、果樹	9
大阪府門真市	アオゾラ農園 金本 信博 氏 島村 努 氏	野菜	10

## 第2章 農山漁村振興交付金（都市農業機能発揮対策）の活用事例

	事業者名	取組内容	ページ
東京都八王子市	多摩地域都市農業共生協議会	地域支援型	14
兵庫県神戸市	一般社団法人 KOBE FARMERS MARKET	地域支援型	15
大阪府東大阪市	ハッピークラブ	地域支援型	16
大阪府大阪市	大阪市南部地域都市農業振興地域協議会	地域支援型	17
愛知県知立市	かきつ畑プロジェクト推進協議会	地域支援型	18
大阪府	一般社団法人 大阪府農業会議	地域支援型	19
東京都国分寺市・国立市・三鷹市	株式会社 エマリコくにたち	モデル支援型	20
神奈川県座間市	小田急電鉄株式会社	モデル支援型	21

# 第1章

## 都市農業のビジネスモデルの事例集

○ 都市農業では、生産の場と消費の場が近いというメリットを活かし、工夫次第では収益性が高い農業経営が可能です。

○ 都市農業のモデルとなる取組を行っている農業者を事例として紹介します。

今後の取組のステップアップにご活用ください。

経営体名	少量多品目	伝統野菜	直売	加工	農業体験・市民農園	農福	都市農地貸借	ページ
KOHARA FARM		○	○				○	5
横山農園	○		○		○			6
天神山須藤園			○	○				7
ささはら菜園			○	○	○		○	8
経営体名	少量多品目	伝統野菜	直売	加工	農業体験・市民農園	農福	都市農地貸借	ページ
こびと農園	○		○		○	○	○	9
経営体名	少量多品目	伝統野菜	直売	加工	農業体験・市民農園	農福	都市農地貸借	ページ
加藤果樹園			○		○			9
アオゾラ農園			○	○	○			10

☑野菜（☐果菜、☑葉菜、☐根菜）、☐果樹、☐花卉、☐植木



## 自ら営業し学校給食用に出荷

☐少量多品目 ☑伝統野菜 ☑直売 ☐加工 ☐農業体験・市民農園 ☐農福 ☑都市農地賃借法

小原さんの農地は、瑞江駅から約1kmに位置し、周囲は住宅やアパート、学校が立ち並ぶ住宅街にある。



経営面積		
経営する農地面積	: 24a	
うち市街化区域内	: 24a	
(生産緑地)	: 24a	
従業員数		
家族	: 2人	
非正規雇用	: 5人(パート雇用)	
売上高		
~1000万円	1000万円~ 3000万円	3000万円~

## 栽培別内訳

露地	施設	その他
	小松菜 (24a)	



## 取組の特徴を教えてください

- ◆ 3年前に父親から経営を継承し、小松菜を施設栽培しています。
- ◆ 年5~6作生産しており、主に学校給食用として提供しています。
- ◆ 収穫までにかかる日数は、夏場だと約40日、冬場だと約100日間です。収穫するまでにかかった日数をスマートフォンに記録しています。経営継承後、3年間の記録が蓄積されたため、今では学校の長期休みを外すなど、収穫期に合わせた栽培計画が立てられるようになりました。
- ◆ より合理的な経営を目指すために農業を熟知した結果、減農薬栽培、ローテーション管理に取り組んでいます。防虫ネットの設置やドアの開け閉めにも注意するなどして、生産が難しい夏場でも安定して収穫できます。
- ◆ 区の補助金を活用して新たに井戸を掘り、災害時に近隣の方々に提供する協定を結んでいます。



小松菜栽培の様子



## 学校給食提供のきっかけを教えてください

- ◆ 江戸川区は江戸川区発祥の野菜である小松菜を学校給食で積極的に取り入れています。
- ◆ 小松菜はほうれん草と比べ子どもの成長に必要なカルシウムの含有量がとても多く、調理時には目減りもしにくく、あく抜きも不要で、どの料理にも使える安定した需要がある野菜です。現場の調理師さんのニーズに応え、年間通じて異物混入を少なく保ち、下処理が徹底的に菜になるように心がけています。
- ◆ 現在は、東京都内の学校を中心に週5で出荷しています。



## 工夫していることを教えてください

- ◆ 現場の栄養士さんは女性が多いこともあり、出荷時に株を揃える、向きを揃える、傷めないなど、見た目のキレイさや調理のしやすさを重視しています。荷姿は1キログラムの束にして、輸送中にほじけない強さで結束しています。
- ◆ 現場目線では何が求められているのかを考えています。栄養士の知り合いがいるので、どのようにすれば好んで使ってもらえるのか情報収集しました。
- ◆ パートさんを5人(35~45歳)雇用しています。僕の父親のことを「レジェンド」と呼ぶなど楽しく雰囲気よく手伝ってくれています。その月の作業量・作業内容に応じてMVPを決めるなど、パートさんの意欲が上がるように工夫しています。



見た目を整えて出荷



新たに掘った井戸



## 今後規模を拡大していく予定はありますか

- ◆ 農地が限られているので、今もハウスぎりぎりまで小松菜を栽培しており、トラクターが入りするスペースも作らないようにしています。直近の規模拡大は考えていませんが、この地でやり切ったと感じたら拡大の準備をしようと思っています。
- ◆ 経費や労力を抑える工夫や、スペースの有効活用、過去の栽培データを活用した生産予想などといった観点を重要視しています。
- ◆ 元々ゲームが好きなので、小松菜の生産もゲーム感覚で楽しみながら工夫して取り組んでいます。

☑野菜 (☑果菜、☑葉菜、☑根菜)、□果樹、☑花卉、□植木

## SNSを活用し、近所の方と直接交流できる庭先販売を实践

☑少量多品目 □伝統野菜 ☑直売 □加工 ☑農業体験・市民農園 □農福 □都市農地貸借法

横山農園は、私鉄駅から約800mに位置し、周囲を戸建て住宅やマンションが密集している住宅地にある。



経営面積		
経営する農地面積	: 60a	
うち市街化区域内	: 60a	
(生産緑地)	: 50a	
従業員数		
家族	: 4人	
非正規雇用	: 0人	
売上高		
~1000万円	1000万円~ 3000万円	3000万円~

### 栽培別内訳

露地 (50a)	季節野菜約20種類 菜花、わけねぎ等	施設 (10a)	えだまめ、とうもろこし	その他
----------	-----------------------	----------	-------------	-----

## 取組の特徴を教えてください

- ◆ 5月中旬から11月の間に、週2回、自宅の庭先で採れたての野菜を販売しています。
- ◆ 庭先販売で主に販売しているのは、えだまめととうもろこしを中心とした10種類の季節野菜です。お客さんに長い期間買ってもらえるよう、施設栽培や作付け時期を工夫しており、えだまめは5月中旬~10月の約半年間、とうもろこしは年3回(①5月中旬~7月末、②お盆、③10月~11月)の提供をしています。
- ◆ 不定期開催ですが、近所子ども達と保護者の方を対象とした収穫体験を実施しており、多くの方に楽しんでいただくと同時に、都市農業の大切さを知っていただいています。
- ◆ 庭先販売を実施しない期間のうち、11月から3月の間は、市場への出荷をメインとする伝統野菜を栽培しています。足立区では、料理に添えて季節感や見た目の美しさを演出する「ツマモノ」と呼ばれる野菜の栽培が昔から盛んであり、椀物に使われる芽かぶと菜花の栽培をしています。
- ◆ また、足立区で古くから栽培されている、わけねぎという、分けつするねぎを周年栽培しており、週に4~5回、他の農家と協力して、市場へ卸しています。



## 庭先販売のきっかけを教えてください

- ◆ 以前はほとんど市場出荷をしていましたが、JAの直売所のオープンを機に、直売所向けの作付け品目に変更しました。また、JAが移動販売車でイベント販売を近所で実施することになり、卸作業時間の短縮と、近所の方たちと交流しながら販売する面白さに手ごたえを感じました。
- ◆ コロナ禍で、移動販売車のイベント販売が中止となってしまいました。「直売所に行くこと往復で約1時間もかかる」という近所の方の声を聞き、目の前で作られた野菜が遠回りしないと購入できないことについて考えました。
- ◆ 地域の方たち、特に若い人たちに新鮮な野菜を食べてもらうこと、近所に食料の生産現場があり、それは貴重な資産であることを知ってもらうために、庭先販売を始めました。

## 工夫していることを教えてください

- ◆ 情報発信に力を入れています。  
歩行者の方が目にする店先の看板(開店時期や陳列時期)を、リピーターの方が登録するSNSでは深い内容(目玉商品)を発信しています。
- ◆ お客さんに楽しんでもらうことを大事にしており、様々な取組をしています。  
例えば、知り合いの農家と協力し、長野のりんご等、旬の野菜・果物を並べることで、季節感を感じる商品棚を作っています。また、コロナ禍によりイベントが減って出店先に困っていたキッチンカーに庭先販売に参加してもらい、よりにぎやかな庭先販売をしています。
- ◆ また、地域の方々に都市農業をより深く知ってもらうために、紙芝居形式で横山農園、足立区の農業、日本の農業の課題について説明しています。



## 取組をしたいと考えている方に一言お願いします

- ◆ 都市農業は、近隣の方に理解してもらうことが重要だと考えています。  
例えば、近隣の方が農業散布などの農作業を見たとき、否定的な印象を持つ人もいます。しかし、庭先販売や収穫体験を通じて都市農業を知っていく中で、その光景を見たとき、都市農業に対し、前向きな印象を持ってもらえると思います。  
都市住民(消費者)と生産者の距離が近くなる取組をすることで、都市農業の魅力と大切さを発信し、生産者にとって追い風となる環境を作っていきましょう。

□野菜 (□果菜、□葉菜、□根菜)、□果樹、□花卉、☑植木



## 「東京産オリーブオイル」に挑戦！

□少量多品目 □伝統野菜 ☑直売 ☑加工 □農業体験・市民農園 □農福 □都市農地貸借法

三鷹市は、市全域が市街化区域に指定されている。須藤さんの農地は、JR駅から約4.5kmの中央自動車道沿いに位置し、三鷹市で最大の農地を代々引き継いでいる。



経営面積		
経営する農地面積	： 3ha	
うち市街化区域内	： 3ha	
(生産緑地)	： 3ha	
従業員数		
家族	： 2人	
売上高		
～1000万円	1000万円～ 3000万円	3000万円～

### 栽培別内訳

露地 (3ha)	植木30~40種類	施設	その他	加工品
	トキワマンサク、オリーブなど			柑橘ジャム、オリーブオイル等



## 取組の特徴を教えてください

◆三鷹市で最大面積を誇る3haの農地で、トキワマンサク、ギンバイカ、フェイジョア、オリーブなどを中心に、年間約30～40種類の植木を栽培しています。

◆生産した植木の多くは、住宅や街路樹の緑として用いられているほか、催事やイベント等に利用されることもあります。一般の方向けには、JA東京むさし三鷹緑化センターの直売所で販売しています。

◆4～5年前から、柑橘類の植木から採れる果実を活用し、ジャムに加工して販売しています。自社HP上のオンラインショップで販売しているほか、JA直売所や近隣のカフェ、新宿のサザンタワーホテルの朝食ビュッフェ等にも取り扱っていただき、年間に約2,000個売り上げています。

◆昨年から、東京都農林水産振興財団のチャレンジ農業支援事業の助成金を活用し、敷地内にオリーブオイルの搾油施設を建設しました。都市農業の新たな価値創造を目指して、オリーブオイルの生産に挑戦しています。



## 取組のきっかけを教えてください

◆三鷹の地で約300年続いている農家で、祖父の代に野菜から植木農家になりました。

◆加工品を始めたいきっかけは、売れ残った柑橘の植木から採れる果実を、有効活用したいと考えたからです。町田市にあるジャム専用工場で、添加物を全く使用しない、果実と砂糖とレモン果汁からできたジャムに加工しています。

◆オリーブオイル生産に着手した大きな理由は、経営の安定のためです。植木産業は経済情勢が反映されやすく、コロナ禍で建設関係の動きが鈍くなり、植木の売り上げが落ち込んでしまいました。オリーブオイルは以前から取り組みたいと思っていましたが、コロナ禍のタイミングや、東京都の助成金制度に後押しされ、本格的に始めることができました。



## 取組の成功の秘訣を教えてください

◆植木の土作りにもこだわり、東京農工大学の馬術部から出る馬糞と、剪定枝を混ぜ合わせて作った堆肥を利用しています。

◆東京産のジャムやオリーブオイルは話題性があり、多くの人に東京農業の価値を知ってもらえる良いきっかけになります。オリーブオイルの搾油施設は、既に口コミが広まり、地産地消やSDGsにこだわった都内レストランのシェフ等が視察にいられています。

◆昨年からは、都の支援でブランディングのコンサルティングを受けています。オリーブオイルをはじめ、今後は美容と健康路線に力を入れて事業展開をしていく予定です。



## ご苦労されたことがあれば教えてください

◆オリーブオイルの生産は、周囲に前例がないため情報収集が大変でした。特に、苗木の調達方法に苦労しました。オリーブオイルは、苗木の種類によって味が大きく変わるため、国際的な品評会で上位の2種を選びました。自社で取り扱っている品種ではなかったため、それらを栽培している農家をInstagram上で探したところ、名古屋の植木農家さんを見つけ、連絡を取り合い、譲ってもらえることになりました。



## 都市農業を取組む仲間に一言お願いします

◆農家にとって、情報発信は必須だと思います。自らHPやSNS上で発信をすることで、逆に問い合わせが来て新しいつながりができたり、欲しい情報が集まる場合があります。自分のビジョンを言葉にすることで、自分のやる気につながるだけでなく、それを聞いた人が情報を提供してくれます。自身もそのおかげで、様々な取組が実現につながりました。

☑野菜（☑果菜、☐葉菜、☐根菜）、☐果樹、☐花卉、☐植木

**自家製のいちごを加工し、農家レストランで提供！**

☐少量多品目 ☐伝統野菜 ☑直売 ☑加工 ☑農業体験・市民農園 ☐農福 ☑都市農地貸借法

笹原さんの農地は、JR福知山線猪名寺駅から約700mに位置し、周囲は住宅やアパート、学校が立ち並ぶ住宅街にある。



経営面積		
経営する農地面積	2.2a	
うち市街化区域内	2.2a	
(生産緑地)	2.2a	
従業員数		
家族	1人	
非正規雇用	3人（パート雇用）	
売上高		
～1000万円	1000万円～ 3000万円	3000万円～

**栽培別内訳**

露地	施設 (22a)	その他
	いちご	かき氷

**取組の特徴を教えてください**

- ◆ 3年前に祖父から農地を継承し、いちごを施設栽培しています。
- ◆ 毎年9月頃に定植し、12月から翌年6月の間にかけて収穫します。
- ◆ 7月初旬から8月の間に、週4回、ハウスの隣にある農家レストランで完熟いちごのかき氷を販売しています。
- ◆ 農家レストランで提供しているかき氷は、農園でとれた完熟いちごを冷凍したものを削った、100%いちごのかき氷です。
- ◆ いちごの在庫がなくなり次第、販売終了となるのですが、多くの方に購入いただき、販売開始から1か月経たないうちに売り切れとなっています。
- ◆ 5月から6月にかけては、いちごの摘み取り体験を実施しており、多くの方に楽しんでいただくと同時に、都市農業の大切さを知っていただいています。



**就農と農家レストランのきっかけを教えてください**

- ◆ 元々就農することを考えておらず、大学の専攻も農学ではありませんでした。しかし、就職活動をしていく中で農業の魅力を感じ、祖父が持つ農地を守るためにも就農することを決意しました。
- ◆ 祖父の代では米と野菜を作っていました。都市の限られた空間で継続的な経営をするためには施設栽培のいちごが良いと考え、神戸市のいちご農家の下で3年間の修行をしたのち、2019年に独立し、新規就農しました。
- ◆ 生産緑地内では設置可能な建築物を農業用施設に厳しく限定されていました。2017年の生産緑地法の改正により、建築規制が緩和され、農家レストランの設置が可能となり、当農園が生産緑地内の農家レストラン全国第1号となりました。
- ◆ 農家レストランは就農当初から開業したいと考えていました。メニューも色々考えましたが、完熟イチゴを楽しんでもらいたいという思いから、かき氷の提供を始めました。



**工夫していることを教えてください**

- ◆ 農家レストランは、元々納屋として利用していた建物を改装したものです。また、レストランの備品や内装は、ビニールハウスの端材を有効活用したり、ホームセンターで部材を購入しDIYしたりすることで初期投資費用を抑えています。
- ◆ 農作業（定植～収穫）は9月から翌年6月であり、農閑期の7月から8月に農家レストランを経営しています。これにより、パートさんが通年で雇用できる、働きやすい環境にしています。
- ◆ かき氷の販売をしていない時期は、直売所として場所を活用し、とれたてのいちごや野菜を販売し、地域の方々に喜んでいただいています。



**今後の取組について教えてください**

- ◆ 今後は、夏季以外での提供や新たなメニュー開発に取り組みたいと思います。
- ◆ また、昔から養蜂に興味があり、試験的に導入をしています。今後は、はちみつの販売やレストランでの提供にも取り組み、都市農業の魅力を発信したいです。



**都市農地を借りて地域社会への貢献を目指す**

☑少量多品目 ☐伝統野菜 ☑直売 ☐加工 ☑農業体験・市民農園 ☑農福 ☑都市農地貸借法

**栽培別内訳**

露地 (30a)	野菜 (約20種類)	施設	その他
----------	------------	----	-----

**取組の特徴を教えてください**

- ◆ 農業高校卒業後、都内で流通関係の仕事や熊本県の農業法人、東京の養液栽培農家での雇用就農などの経験を通し、自分の目指す経営体を実現するため、東京で就農したいという気持ちを持つようになりました。
- ◆ 2022年4月に東京都の武蔵野市、小金井市の生産緑地を借りて新規就農しました。
- ◆ 現在は、少量多品種でカラフルな野菜を中心に露地で栽培し、地域の商店街や直売所、飲食店などに出荷するほか、畑に設けた直売スペースで、週1回近隣住民に直売会を行っています。
- ◆ 都市農業の魅力発信の場として、年間を通じた会員制の体験農園イベントの実施や、福祉作業所と連携した農福連携の取組なども行っています。都市農業の取組を通じて地域社会に貢献したいです。
- ◆ LINEやInstagram、noteなどで、自ら積極的に情報発信をするように心がけています。



**農地はどのように見つけましたか**

- ◆ 東京都農業会議の紹介により、東京農業アカデミー※で2年間学びながら、農地探しを始めました。
- ◆ 単に野菜を作るだけでなく、消費者と近く関われる場所で就農したいという思いで探していたところ、タイミングよく2つの市で貸借を考えている地主さんを紹介いただき、農地を借りることができました。



※東京都農林水産振興財団が運営する、都内で就農を目指す方を対象とした研修施設。

**今後の展望を教えてください**

- ◆ 安定生産と規模拡大はもちろんのこと、雇用の体制を整えることが今後の目標です。(2022年6月からパート1名を雇用)
- ◆ 冬期でも生産できるようにハウス施設を建て、収益性を高めたいです。
- ◆ また、地域の商工会と連携し、農業以外の目線を取り入れながら都市農業の魅力発信を行っていきたいです。

**宅地を農地転換し、生産緑地を拡大**

☐少量多品目 ☐伝統野菜 ☑直売 ☐加工 ☑農業体験・市民農園 ☐農福 ☐都市農地貸借法

**栽培別内訳**

露地 (60a)	果樹・野菜 (約20種類)	施設	その他
----------	---------------	----	-----

**取組の特徴を教えてください**

- ◆ 先祖代々、練馬区で農業を営んでおり、少量多品目の果樹や野菜を栽培しています。特に柿は50年以上栽培しており、味には自信があります。
- ◆ 10年ほど前、新たにブルーベリーを導入し、摘み取り体験ができる観光農園「ベリーワールド・かとう(加藤果樹園)」を始めました。
- ◆ ブルーベリーは、減農薬で栽培しています。また、初めてブルーベリーを摘み取る方のために、美味しい摘み取り方を教えたり、一緒に採れたての野菜を販売することで、練馬区外からもたくさんの方がリピーターとして来ていただいています。
- ◆ 最近では、Instagramで、開園のお知らせや生育の様子を発信しています。



**宅地を農地に転換されたと聞きました**

- ◆ 練馬区の紹介により、東京都の補助事業を活用し、空き家となっていた離れ(母屋)を農地へ転換しました。
- ◆ さらに、練馬区の協力のもと、生産緑地への指定をすることで、長期的な農業経営の展望が開けました。



宅地から農地に転換する様子(母屋→整備後①→整備後②)

**今後の展望を教えてください**

- ◆ 新たに農地化した農地では、長年栽培してきた柿を、ジョイント栽培と呼ばれる手法で取り組んでいます。ジョイント栽培をすると、樹勢が均一化するため、作業が楽な上、車いすでも利用できるため、将来は、障がいのある方でも利用できる観光農園の開設も目指します。

☑野菜 (☑果菜、☑葉菜、☑根菜)、☐果樹、☐花卉、☐植木

## 駅前の商業施設の屋上で貸し農園

☐少量多品目 ☐伝統野菜 ☑直売 ☑加工 ☑農業体験・市民農園 ☐農福 ☐都市農地貸借法

アオゾラ農園の屋上菜園は、大阪メトロ谷町線大日駅から約450mに位置し、周囲は住宅や高層マンション、学校、住宅街が立ち並ぶ商業施設の屋上にある。



### 経営形態

経営する農園の場所：  
商業施設の屋上部分

貸し農園：<個人利用>  
3.3㎡×100区画  
<団体利用>  
250㎡  
(収穫体験エリア)

### 従業員数

正規雇用：3人(常勤スタッフ)

## 取組の特徴を教えてください

- ◆ 2011年から大阪府門真市にある商業施設の屋上で、貸し農園を運営しています。
- ◆ 施設周辺は元々工業地帯であり農地がないため、屋上菜園のニーズがとてもあり、多くの方に利用いただいています。利用者は子ども連れの若い世代からセカンドライフを楽しむ高齢者の方まで幅広く、当社の貸し農園の経験を契機に新規就農された方もいます。
- ◆ 肥料や道具は農園にあるため持ち込み不要です。また、技術指導については、農繁期には週3日、スタッフが駐在しているため、初心者の方も美味しい野菜を栽培できる環境になっています。
- ◆ また、農園には水道や電気配線も整備されているほか、農園利用者は商業施設内のトイレを利用できるため、気軽に農作業できることも特徴です。



- ◆ 個人利用の区画貸し以外に、福祉団体向けに収穫体験ができる区画貸しをしており、未就学児童や障がい者の方も農とのふれあいができる空間になっています。



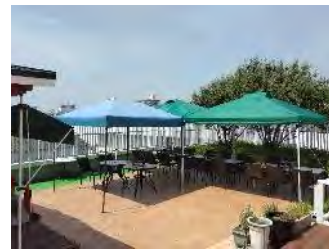
## 屋上菜園のきっかけを教えてください

- ◆ 元々、この土地には工場がありましたが、2011年に商業施設に転換しました。施設のオーナーは、地域貢献したいことや周辺に緑が少ないことから、建設当初から屋上菜園を計画していました。
- ◆ 当社のメンバーには、不動産事業者や建築士がいるため、屋上の積載荷重や安全管理、周辺宅地への影響を考慮し、オーナーの想いに沿った屋上菜園を計画し、運営するにあたりました。



## 工夫していることを教えてください

- ◆ 商業施設の屋上であるため、積載荷重と漏水防止を考えた設計にしています。防水シートとコンパネの三重構造やU字溝を活用した排水設備を作り、野菜栽培に十分な土の深さも確保しています。
- ◆ 栽培方法も工夫しています。トマト・ナス・ピーマンの成長差を活かした農法やさつまいもの垂直仕立て栽培をすることで、限られた空間でたくさんの美味しい野菜を作る方法を研究し、利用者の方に喜んでいただいています。
- ◆ 空き区画になっている場所はさつまいもやたまねぎを植え、商業施設内の直売所で販売しています。農産物はエレベーターで運べばよいので、運送コストがかかりません。
- ◆ 貸し農園以外にBBQのレンタルスペースも実施しており、都市住民の交流・やすらぎの場を提供しています。
- ◆ 6次産業化プランナーの紹介で、千早赤阪村の棚田の保全活動や寝屋川市のマコモ栽培にも携っており、貸し農園の利用者の方に情報発信し、参加を促しています。これにより、利用者の方が農業の魅力をより知ることによって、都市農村の交流・継続的な農園利用につながっています。



農園に併設するBBQテラス



千早赤阪村の棚田



## 今後の取組について教えてください

- ◆ また、空き区画を活用し、食品残渣を有効利用した堆肥作りも考えており、屋上菜園発の新しい農業事業を展開したいです。
- ◆ 廃棄される中古ユニットバスを活用した栽培キットを開発しています。将来は、この栽培キットを教育機関や福祉団体向けの農業体験に活用したいと思います。

- 農地に関する税制は、高額な税負担により農業経営の維持が困難となる可能性があることに配慮した制度となっており、市街化区域内農地に係る相続税、固定資産税は、生産緑地とそれ以外の農地の区分などに応じ、課税条件や評価が異なる仕組みとなっています。
- 平成30年度税制改正において、都市農地の貸借の円滑化に関する法律に基づき、生産緑地を貸借した場合には、相続税の納税猶予措置が継続されることとなりました。

相続税の納税猶予について

相続税納税猶予制度の適用条件

	三大都市の特定市	三大都市圏の特定市以外の市町村	納税猶予期間の終了事由とならない貸付け
市街化区域内の農地	適用なし	適用 (20年継続免除)	営農困難時の貸付け(※1)
生産緑地地区	適用 (終身営農が必要)	適用 (終身営農が必要)(※3)	営農困難時の貸付け(※1) 都市農地貸借法等による政策的貸付け
農振農用地等	適用 (終身営農が必要)		営農困難時の貸付け(※1) 基盤法等による政策的貸付け(※2)

- (※1) 営農困難時の貸付けとは、猶予期間中に身体障害等により営農継続が困難となった場合の農地の貸付けをいう。
- (※2) 基盤法による政策的貸付けに係る特例は、市街化区域を除いて認められている。
- (※3) 既適用者に対する経過措置として、①既存の納税猶予適用農地を引き続きすべて自作する場合は、20年継続免除を適用、②適用農地を貸し付けることも可能(この場合、適用農地はすべて終身利用する必要。)

固定資産税について

	三大都市圏の特定市	三大都市圏の特定市以外の市町村
市街化区域内の農地	宅地並評価・宅地並課税	宅地並評価・農地に準じた課税(※)
生産緑地地区	農地評価・農地課税	農地評価・農地課税
農振農用地等	農地評価・農地課税	農地評価・農地課税

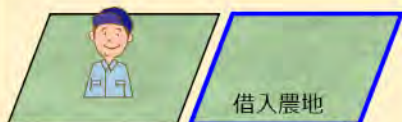
## 参考2

### 都市農地貸借の活用について

- 平成30年9月に都市農地（生産緑地）を借りやすくするための措置を講じた「都市農地の貸借の円滑化に関する法律（都市農地貸借法）」が施行されました。

#### 都市農地貸借法の活用方法

##### 農業経営の規模拡大



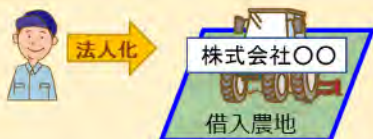
隣接する農地を借り、経営を効率化

##### 新規就農



農地を借りて新規就農

##### 法人化



立ち上げた法人に賃借権を設定し、法人化

##### 事業承継



後継者に賃借権を設定し、事業承継

##### グループで取組



代表者が農地を借り、グループで野菜を生産し、直売（農業経営は代表者が主宰）

##### 学童農園の開設



幼稚園が農地を借り、園児が農作業を体験

## 参考3

### 都市農地・農的空間の創出について

- 農林水産省では、令和5年度より、宅地の農地転換による農地の創設や都市部の空閑地における農的空間（非農地を活用した農園等）の創出、地方部における生産緑地の導入促進を目指すため、都市農業者や農業団体、行政の関係者の連携体制の構築等を支援します。

#### (1) 宅地の農地転換による都市農地の創設



- ・農地転換
- ・生産緑地指定
- ・都市農地貸借

都市農業者等の所有する駐車場、アパート等が老朽化し、荒廃の恐れ



- ・市民農園等の整備
- ・既存生産緑地と一体となった一団の農地空間の創設

#### (2) 宅地の空閑地を活用した農的空間の創出



- ・リノベーション
- ・若年層の入居

老朽化、高齢化が進行する団地



#### (3) 地方部における生産緑地の導入の促進



- ・生産緑地制度の周知



## 第2章

# 農山漁村振興交付金（都市農業機能発揮対策） の活用事例集

- 農林水産省では、都市農業が都市住民との共生を図りながら発展していくため、都市住民と都市農業者との交流促進の取組、都市住民の都市農業に対する理解醸成の取組、都市の防災協力農地の防災機能の一層の発揮のための取組など、皆様の新しい取組や拡大を目指す取組のスタートアップを支援するため本交付金により国から直接助成を行っています。
- 交付金を活用し、都市農業の振興に取り組む団体を事例として紹介します。  
今後の取組のステップアップにご活用ください。

経営体名	地域支援型			モデル支援型			ページ
	理解醸成の取組	マルシェの開催	防災協力農地	農村ファン拡大	有機農業の普及	防災機能の強化	
多摩地域都市農業共生協議会	○						14
一般社団法人 KOBE FARMERS MARKET		○					15
ハッピークラブ		○					16
大阪市南部地域都市農業振興地域協議会	○						17
かきつ畑プロジェクト推進協議会	○						18
一般社団法人 大阪府農業会議			○				19
株式会社 エマリコくにたち				○			20
小田急電鉄株式会社					○		21

【地域支援型】理解醸成の取組

☑少量多品目、☑直売、□加工、☑農業体験、□農福、□都市農地貸借法



## 多摩地域で都市農業の魅力を発信！

### 実施地域の現状・課題

一般社団法人畑会の活動の中心となっている磯沼ミルクファームは、八王子市小此企町に位置し、京王線山田駅や県道506号線など、各方面からアクセスしやすい地域にある。

#### <現状>

東京都の農業生産額が低下する中、八王子市は多種多様な農産物を生産しており、都市住民のニーズも高い。

#### <課題>

東京産野菜の認知度が低く、都市住民と生産者との交流の場が不足している。個々の生産者のロット数が小さく、安定供給体制が構築されていない。

交付金の活用

### 取組概要

#### ◆実施体制

農業者や消費者とネットワークを持つ一般社団法人畑会を中心に地元自治体、磯沼ミルクファームなどの生産者、企業や市民団体と連携。

#### ◆取組内容・効果

- ・人形町などの都心エリアでマルシェを計12回開催、八王子市内で農業体験会を計5回実施し、都市農業や食育に関する理解醸成と都市農業のファン獲得につながった。
- ・コロナウイルス対策としてオンラインセミナーを2回開催し、今まで東京農業をあまり知らなかった層に向けて都市農業の魅力を発信できた。
- ・研修事業についてHPやネット広告で情報発信を行ったところ、計20名の研修生の申込みがあり、農業に関わる人材を増やすことができた。
- ・積極的な情報発信やチラシ配布等を継続して行ったところ、体験農園の利用者が年間で10名ほど増加。農家の経営支援につなげることができた。

### 人形町マルシェの様子



### 農業体験会・農業研修の様子



### オンラインセミナーの様子



【地域支援型】マルシェ等の開催

☑少量多品目、☑直売、☐加工、☐農業体験、☐農福、☐都市農地貸借法



## 神戸市内各地で若い世代を取り入れたマルシェを開催！

### 実施地域の現状・課題

#### <現状>

- ・神戸市の面積の約6割は市街化調整区域であり、そのうち農地は1/6を占めている。
- ・農業産出額は、100万人を超える政令指都市の中で最も多い。

#### <課題>

- ・近年、高齢化等により農家人口は減少の一途をたどっており、若い世代に農業への関心を高めていくことが不可欠。
- ・自然豊かな街のメリットを活かすため、都市農業者と都市住民との間のつながりを作っていくことが課題となっている。

交付金の活用

### 取組概要

#### ◆実施体制

自治体や地元農業者らとの連携に加え、新しく若手運営メンバーや学生ボランティアを充実させ、運営体制を強化した。

#### ◆取組内容・効果

- ・神戸の中心地三宮で毎週土曜日に定期開催するファーマーズマーケットに加えて、合計5エリアの地域フェアを開催するとともに、理解醸成に向けたアンケートを実施。
- ・一般開催時のファーマーズマーケットに比べ、地域フェア開催時は1.2倍～1.5倍の売上となり、来場者が、2割～3割増加した。
- ・新たな地域フェアを漁港などの場所で開催することにより、新しいファンを獲得することができた。また、農家の新規出店等もあり、新規客を呼び込み通年での全体来場者を押し上げる効果も出ている。

### 垂水DAY・長田DAY開催案内



### マルシェ開催の様子



【地域支援型】マルシェ等の開催

☑少量多品目、☑直売、☐加工、☐農業体験、☐農福、☐都市農地貸借法



## 都市住民の交流促進のため、東大阪市産エコ農産物のマルシェを開催！

### 実施地域の現状・課題

#### <現状>

大阪市に隣接する東大阪市は、葉物野菜の産地であったが、市街化の進行による農地減少や生産者の高齢化に伴う輸送手段確保の困難などで市場でのロット数がまとまらず、取引価格が下落傾向にある。

#### <課題>

都市農業を保全し、継続するためには都市農業に対する住民理解が不可欠である。

交付金の活用

### 取組概要

#### ◆実施体制

ハッピークラブメンバーによりエコ農産物を栽培し、マルシェにおいてエコ農産物や加工食品の販売を行う。

※エコ農産物：農薬や化学肥料の使用量を通常の半分以下で栽培された農作物

#### ◆取組内容・効果

・東大阪市産のエコ農産物によるマルシェを、ターミナル駅や緑地公園等で計7回開催した。農産物の販売だけでなく、都市農業・生産者をPRするパネルの展示や都市住民と積極的な対話を行い、都市農業の機能・魅力を多くの都市住民に発信した。

・販売の際、都市農業に関するアンケート調査を実施し、「都市農業・都市農地を保全すべきだと」等の回答が得られた。

南海なんばマルシェの様子



久宝寺マルシェの様子





### 【地域支援型】理解醸成の取組

☑少量多品目、☑直売、☐加工、☑農業体験、☐農福、☐都市農地貸借法



## 大阪市で都市農業の理解醸成を図る

### 実施地域の現状・課題

#### <現状>

大阪市内の農地は、全て市街化区域に指定されており、都市住民の生活と関係の中で発展してきたところ。

#### <課題>

農作業にかかる堆肥などにおいて、農薬の飛散、農業機械の騒音などの課題があり、周辺住民からの理解が得にくい。

そのため、どのように住民理解を得て、都市農業を継続していくかが課題となっている。

交付金の活用

### 取組概要

#### ◆実施体制

野菜の直接販売、農業体験会で取れたての野菜を味わっていただくことで、都市農業の理解と関心を深めてもらうため、地元NPO法人等と連携。

#### ◆取組内容・効果

- ・都市住民を対象とした農業体験会や試食会を、地元NPO法人・大阪市と連携の上、計7回開催することで、多くの近隣住民の方に参加してもらい、都市農業の機能について理解を得た。
- ・無人販売機（ロッカー）やイチゴの高設栽培施設（イチゴ狩り施設）を整備することで、日常的に新鮮な野菜や果物を都市住民に供給するとともに、住民にさらなる理解の向上を図った。

大阪市内での農業体験会、試食会の様子



無人販売機・イチゴ園の様子



### 【地域支援型】理解醸成の取組

□少量多品目、 □直売、 加工、 農業体験、 □農福、 都市農地貸借法



## 地元学校と連携し都市農業の魅力発信！

### 実施地域の現状・課題

#### <現状>

- ・知立市の作付面積は田が8割、畑が2割と水稻が主体となっている。
- ・小規模・不整形な農地が点在しており、機械化による農作業の導入が難しい地域となっている。

#### <課題>

- ・住宅が密集する都市において、農作業に対する苦情が多く、周辺住民からの理解が得にくいという現状がある。
- ・農業者の高齢化や担い手不足による都市での耕作放棄地発生の恐れがある。

交付金の活用

### 取組概要

#### ◆実施体制

地域住民による体験農場の運営や担い手と農地のマッチングのため、地元の学校運営協議会や農業委員会と連携。

#### ◆取組内容・効果

- ・地元の教育機関・地域団体と連携し、学生・保護者を対象とした農業体験会や農産物の加工体験（給食メニュー考案）を開催し、地域の多世代にわたって都市農業への理解が向上した。
- ・農業委員会と連携し、都市部の遊休農地を調査し、所有者の意向を踏まえた上で、都市農地貸借法を活用し、耕作放棄地の発生を防いだ。また、当該農地で耕作放棄地の推奨作物（ローゼル）を導入し、その加工品の活用方法を地元の高校と検討するなど、都市農業の継続モデルの実証実験をしている。

稲刈り体験の様子



しめ縄づくり体験の様子



ジャムづくり体験の様子



取組みリーフレット



## 【地域支援型】防災協力農地の機能強化

□少量多品目、□直売、□加工、□農業体験、□農福、□都市農地貸借法



## 大阪府全域で防災協力農地拡大と地域住民の理解促進に取り組む

### 実施地域の現状・課題

#### <現状>

府内農地面積は1万2,823ha（平成30年）。市街化区域内農地は3,335haで、そのうち生産緑地は1,927haとなっている。

#### <課題>

- ・府内43市町村のうち、防災協力農地に取り組むのは12市町と3割程度にとどまっている。
- ・大阪府内農地は防災空間等の多様な機能を有しているにもかかわらず、府民に十分に認知されていない。
- ・既に同制度を導入した地域においても、防災協力農地の登録が進まないケースが散見している。

交付金の活用

### 防災協力農地の取組をまとめた啓発パンフレット作成

### 寝屋川市防災協力農地の様子



### 取組概要

#### ◆実施体制

府内の市町村、農業委員会、JA等の農業関係団体とのネットワークを生かした体制により、防災協力農地の推進及び府民への都市農地の防災機能の理解醸成に取り組む。

#### ◆取組内容・効果

- ・府内で防災協力農地制度について先進的に取組んでいる6市についてヒアリングを行い、導入の経過や制度の概要、課題などを取りまとめた資料を作成。
- ・府内の農業委員会、市町村（農政・都市計画・危機管理部局）、各関係機関・団体等に向けて情報共有を行い、登録農地面積の拡大を図った。

◇増加（貝塚市4,278㎡、四條畷市13,771㎡、和泉市2,465㎡、岸和田市4,749㎡、交野市7,938㎡、摂津市44,324㎡、大阪市7,724㎡、枚方市5,176㎡）  
（令和3年度実績）

- ・他地域の事例を踏まえて市として導入を検討している市町村、農業委員会会長から直接導入希望の相談を受けた例もあり、今後制度拡大が進むことが考えられる。
- ・令和4年度は、防災協力農地の受益を受ける地域住民を対象に現地見学会や説明会を開催し、都市農地における防災機能について情報提供を行うとともに、対面での聞き取り調査を実施する予定。

## 【モデル支援型】農村ファン拡大

□少量多品目、 □直売、□加工、 農業体験、□農福、□都市農地貸借法



## 有機農業の担い手と都市農業を支える都市住民の育成を目指す！

### 実施地域の現状・課題

多摩地域を中核として都市農業の担い手と農村ファンの育成を図る。

#### <現状>

- ①生産緑地をはじめとした都市農地が比較的残されている
- ②行政や農業者は、都市農地維持に対する危機感が強い
- ③足元のマーケットが大きく、地産地消流通も盛んで援農ボランティアも多い

#### <課題>

- ①みどりの食料システム戦略で有機農業の拡大がうたわれているが、農業者は日々の農業経営に追われ、持続可能な農業や有機農業について、学習する時間がない。
- ②「エコファーマー」や「東京都GAP」などの認証を取得しているが、農産物の販売価格に転嫁できていない。
- ③援農ボランティアは高齢化が進み、農作業サポートにとどまっている。

交付金の活用

### 取組概要

#### ◆実施体制

多摩地域の農産物の流通・販売を行うベンチャー企業「(株)エマリコくにたち」と青壮年農業者、農業体験活動を行うNPO等が連携して事業を実施。

#### ◆取組内容（計画）

- ①みどり戦略TOKYO農サロン  
循環型農業、有機農業等に関心のある農業者が先輩農業者の圃場で実習しながら、技術を学ぶ。
- ②イートローカル探検隊  
座学講習や名人農家での援農を通じて、食に関心のある都市住民を都市農家の「中間支援層」として育成。
- ③持続可能な都市農業モデル農園の創出  
国分寺中村農園を舞台に、プロ農家が地域のバイオマス資源を活かした堆肥を使って行う循環型農業のモデルを作り、地域に普及する。  
※SNSを活用して、参加者を拡散。

### 農業者プログラム(みどり戦略TOKYO農業サロン)の様子

#### ←鴨志田農園 (三鷹市)

落ち葉や馬糞を原料とした堆肥を活用した野菜の栽培



#### ←あらはたやさい学校 (武蔵村山市)

村山のうどんの出汁を堆肥に使ったコマツナの周年栽培



#### ←ヤナガワファーム (青梅市)

木くず、生ゴミ等の堆肥を使った有機JASによるニンジン、キャベツ等の栽培

【モデル支援型】有機農業の普及

□少量多品目、□直売、□加工、□農業体験、□農福、□都市農地貸借法



## 座間市で地域循環モデルを目指す！

### 実施地域の現状・課題

座間市は神奈川県のほぼ中央に位置し、市域は17.57km<sup>2</sup>人口約13万人の市である。市街化調整区域のほぼすべてが農業振興地域であり、農地面積は田が88ha、畑が126haの計214 haである。

#### <現状>

小田急電鉄と座間市では、令和元年からごみ収集運搬の最適化システム「WOOMS」の実証実験を開始。収集運搬の効率化によって生まれた余力により剪定枝のリサイクルに取り組み、年間1,200トン(2021年度)程度の廃棄物をリサイクルすることが可能となった。

#### <課題>

ゴミの削減・資源循環に対する住民理解の増進と有機農業の推進

交付金の活用

### 取組概要

#### ◆実施体制

小田急電鉄と神奈川県座間市の資源対策課・農政課と連携。

#### ◆取組内容（計画）

- ・座間市内の600世帯へ生ごみを手軽に堆肥化する「LFCコンポスト」を無償貸与し、各家庭から排出される焼却ごみを削減。
- ・各家庭からごみ集積所へ出していただく「出来上がり堆肥」を、座間市のゴミ収集車で効率的に回収する。
- ・回収した堆肥を、第三者機関で品質調査したうえで、市内の農家や市民農園で農作物の栽培に活用する。

#### ◆目指す姿

- ・焼却ごみの削減と、都市農業の振興による循環モデルを形成する。
- ・2024年3月末までに計600世帯から出る約20トンの生ごみを削減し、約2トンのコンポストとして再生する計画。



LFCコンポストバッグ



座間市民説明会・中間報告会の様子



農山漁村振興交付金のうち

## 都市農業機能発揮対策

【令和5年度予算概算決定額 9,070（9,752）百万円の内数】

### <対策のポイント>

都市住民と共生する農業経営の実現のため、農業体験や農地の周辺環境対策、防災機能の強化等の取組を支援し、その際、都市農地の貸借に係る取組を優先します。また、国の施策の方向性に沿ったモデル的な取組や都市部の空閑地を活用した農地や農的空間を創設する取組等を支援します。

### <事業目標>

都市農地の貸借の円滑化に関する法律に基づき貸借された農地面積（255ha〔令和6年度まで〕）

### <事業の内容>

#### 1. 都市農業機能発揮支援事業

都市農業の多様な機能を発揮させるため、アドバイザーの派遣や税・相続に関する講習会の開催、都市住民の都市農業や農山漁村に対する理解醸成に効果的な情報発信等の取組を支援します。

#### 2. 都市農業共生推進等地域支援事業

##### ① 地域支援型

ア 都市住民と共生する農業経営への支援策の検討や都市農業の多様な機能についての理解醸成、市民農園等の附帯施設の整備や都市農地の周辺環境対策等の取組

イ 都市農業者と都市住民が直接ふれあうマルシェの開催等による交流促進のための取組

ウ 防災機能の維持・強化等の取組等を支援します。

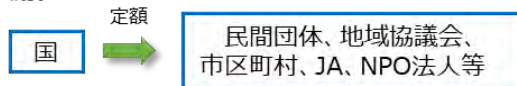
##### ② モデル支援型

国の施策の方向性に沿った取組を、複数の地域が連携して一体的に実施し、当該取組をガイドライン化するなどにより、各地域へ波及させる取組を支援します。

##### ③ 都市農地創設支援型

都市農業者や行政機関等が連携し、都市部の空閑地（駐車場等）を活用して農地や農的空間を創設する取組等を支援します。

### <事業の流れ>



### <事業イメージ>

都市農業機能発揮支援

都市農業アドバイザーの派遣

税・相続に関する講習会

都市住民への理解醸成や効果的な情報発信

都市農業共生推進等地域支援

**●地域支援型**

都市住民と共生する農業経営への支援策の検討

都市住民との交流促進

防災機能の維持・強化

農作業体験会の開催

市民農園の整備等

マルシェ等の開催

防災訓練や防災兼用井戸の整備

**●モデル支援型**

農村ファンの拡大

防災機能の強化

<各地域への波及>

当該取組を通じ、課題や振興方策等を取りまとめ、ガイドラインなどにより全国に波及させる取組を支援。

**●都市農地創設支援型**

老朽化した駐車場を農地等への整備

都市農地貸借法に基づく農地の貸借による次世代の担い手づくり等の取組に対し、加算により優先。

貸借

都市農業者（担い手）

# MAFF

## 問い合わせ先

令和5年1月

農林水産省農村振興局農村政策部  
農村計画課都市農業室

〒100-8950

東京都千代田区霞が関1-2-1

TEL 03-3502-8111 (代表)

03-3502-5948 (直通)

[https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/tosi\\_nougyo/index.html](https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/tosi_nougyo/index.html)